

委員長コメント
(平成23(2011)年エイズ発生動向の概要について)

【平成23年 年間報告(確定値)】

【概要】

1. 今回の報告期間は平成23年1月1日から平成23年12月31日までの1年
2. 新規HIV感染者は1,056件であり、昨年より減少し、過去4位。
3. 新規AIDS患者は473件で過去最多
4. 合計は1,529件で、昨年より減少し、過去3位。(一日あたり約4.2件の新規報告)
※これまでの最高は、平成20年(確定値) HIV感染者1,126件、AIDS患者431件、合計1,557件

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが722件(全HIV感染者報告数の約68%)
 - 異性間性的接触によるものが206件(全HIV感染者報告数の約20%)
 - 静注薬物によるものが12件(うち、その他に計上されているものが8件)
 - 母子感染によるものが1件
 - 年齢別では、特に20~30代に多い
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが262件(全AIDS患者報告数の約55%)
 - 異性間性的接触によるものが124件(全AIDS患者報告数の約26%)
 - 静注薬物によるものが1件
 - 年齢別では、30代に多い

【報告地別の概況】

1. 新規HIV感染者：
 - 東京都を含む関東・甲信越ブロック及び近畿ブロックからの報告が多数(約69%)を占めつつ、減少もしくは横ばいで推移。
 - 東海ブロック及び九州ブロックで増加傾向。
2. 新規AIDS患者：
 - 東京都を含む関東・甲信越ブロック及び近畿ブロックからの報告が多数(約59%)を占めつつ、減少もしくは横ばいで推移。
 - 東海ブロック及び九州ブロックで増加傾向

【まとめ】

1. 平成23年(2011)年における新規HIV感染者報告数は、2008年をピークとし、過去3年間ピークを越えていないが、新規AIDS患者報告数は、昨年を上回り引き続き過去最多であった。

(続く)

2. 保健所等でのH I V抗体検査数は2008年が最も多く、その後減少している。保健所等でのH I V抗体検査数と新規H I V感染者報告数の関連については現段階では断定することは難しいものの、各自治体においては、エイズ予防指針を踏まえ、個別施策層（特にMSM）を中心に、利用者の利便性に配慮した検査・相談事業を強化することが重要である。さらに、国民のH I V/エイズに対する関心を高め、受検行動に結びつけるよう、普及啓発に努めることが重要である。

注1) 個別施策層：感染の可能性が疫学的に懸念されながらも、感染に関する正しい知識の入手が困難であったり、偏見や差別が存在している社会的背景等から、適切な保健医療サービスを受けていないと考えられるために施策の実施において特別な配慮を必要とする人々

注2) MSM：男性間で性行為を行う者をいう。

3. 新規H I V感染者及び新規A I D S患者の報告は、日本国籍男性で、同性間性的接触を感染経路とするものが引き続き、多数を占めている。
4. HIV感染者及びAIDS患者ともに、東京都及び近畿では減少又は横ばいであるが、東京を除く関東・甲信越、東海、九州などでは増加傾向がみられた。
5. 国民は引き続きH I V・エイズについての理解を深めていただきたい。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、感染予防に努めるとともに、H I V抗体検査・相談の機会を積極的に利用していただきたい。

なお、平成23（2011）年エイズ発生動向年報の詳細については、7月下旬に年報を公表予定である。